

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 05-235718

(43)Date of publication of application : 10.09.1993

(51)Int.Cl.

H03K 5/156

H03K 5/135

(21)Application number : 04-030530

(71)Applicant : ADVANTEST CORP

(22)Date of filing : 18.02.1992

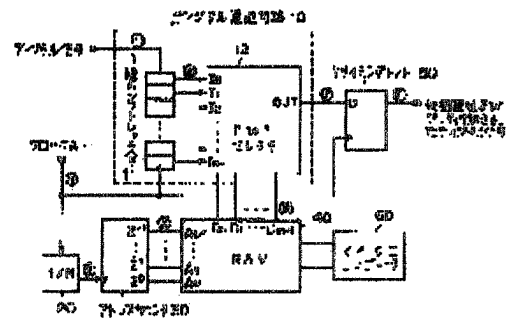
(72)Inventor : TOMITA YOSHIETSU
HIGUCHI KENJI

(54) JITTER PROVISION DEVICE

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide the jitter provision device providing jitter and a phase delay simultaneously.

CONSTITUTION: This device is provided with a digital delay circuit 10 comprising an n-stage shift register 11 receiving a digital signal and an n-to-1 selector 12 receiving an output of the shift register 11 to its relevant input and allowing the n-to-1 selector 12 to selectively output a digital signal with an optional delay among digital signals delayed by the shift register 11, with a clock A signal source advancing the shift register 11, with a frequency divider 20 applying 1/N frequency division to the clock A, with an address counter 30 advanced by the frequency division output, and with a RAM 40 in which data representing a content of jitter are described, addressing the RAM data based on the description content of the counter 30 and outputting the addressed signal to the n-to-1 selector 12 as a selection signal.



(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-235718

(43)公開日 平成5年(1993)9月10日

(51)Int.Cl.⁵

H03K 5/156
5/135

識別記号

庁内整理番号
A 7402-5J
4239-5J

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全5頁)

(21)出願番号 特願平4-30530

(22)出願日 平成4年(1992)2月18日

(71)出願人 390005175

株式会社アドバンテスト
東京都練馬区旭町1丁目32番1号

(72)発明者 富田 義悦
東京都練馬区旭町1丁目32番1号 株式会社アドバンテスト内

(72)発明者 樋口 憲二
東京都練馬区旭町1丁目32番1号 株式会社アドバンテスト内

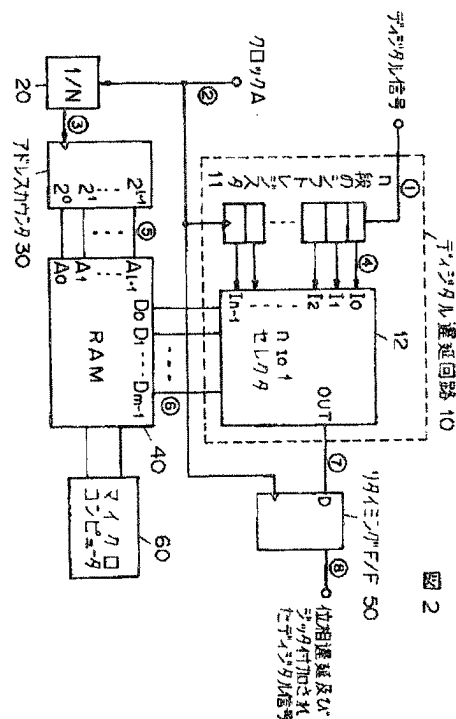
(74)代理人 弁理士 草野 卓 (外1名)

(54)【発明の名称】 ジッタ付与装置

(57)【要約】

【目的】 ジッタおよび位相遅延を同時に付与するジッタ付与装置を提供する。

【構成】 デジタル信号が入力されるn段シフトレジスタ11と、シフトレジスタ11の出力が対応する入力に接続するnto1セクタ12とを有して、シフトレジスタ11により遅延せしめられたデジタル信号の内の任意の遅延量のデジタル信号をnto1セクタ12により選択出力するデジタル遅延回路10を具備し、シフトレジスタ11を歩進するクロックA信号源を具備し、クロックAを1/N分周する分周器20を具備し、分周出力により歩進されるアドレス・カウンタ30を具備し、ジッタ内容を示すデータが記述されてこのRAMデータをカウンタ30の記述内容によりアドレスして選択信号としてnto1セクタ12に出力するRAM40を具備するジッタ付与装置。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 デジタル信号が入力される n 段シフトレジスタと、 n 段シフトレジスタの出力が対応する入力に接続する n ライン t o 1 ライン・セクタとを有して n 段シフトレジスタにより遅延せしめられたデジタル信号の内の任意の遅延量のデジタル信号を n ライン t o 1 ライン・セクタにより選択して出力するデジタル遅延回路を具備し、 n 段シフトレジスタを歩進するクロック A 信号源を具備し、クロック A を $1/N$ 分周する分周器を具備し、分周器の分周出力により歩進されるアドレス・カウンタを具備し、ジッタ内容を示すデータが記述されてこのRAMデータをアドレス・カウンタの記述内容によりアドレスして選択信号として n ライン t o 1 ライン・セクタに出力するRAMを具備することを特徴とするジッタ付与装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、ジッタ付与装置に関し、特に、デジタル信号の遅延回路を使用してジッタおよび位相遅延を同時に付与するジッタ付与装置に関する。

【0002】

【従来の技術】ジッタ付与装置の従来例を図1を参照して説明する。図1において、1はフリップ・フロップであり、そのデータ端子Dにデジタル信号が供給される一方、そのクロック端子CLKにはクロックが送り込まれる。ここで、このクロックについてであるが、これはデジタル信号に同期したクロックをクロック位相遅延調整器2に供給してここにおいてクロックの位相遅延調整をし、位相遅延調整されたクロックをクロック位相変調器3にかけてここにおいて変調信号源4から送り出される変調信号により位相変調した結果のものである。結局、フリップ・フロップ1から送り出される出力は上述の通りに位相遅延調整および位相変調されたクロックによりリタイミングされたデジタル信号であり、ここにおいてジッタおよび位相遅延が付与されたデジタル信号が得られたことになる。このジッタおよび位相遅延が付与されたデジタル信号は遅延線その他の微小遅延要素5を介して出力される。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】この従来のジッタ付与装置は、クロック位相変調器3と変調信号源4とより成るジッタ付与回路とクロック位相遅延調整器2とが別体で独立していて、装置として効率がよくない。ジッタ付与回路はそのジッタ周波数、振幅、波形を調整制御可能なものに構成しようすると、クロック位相変調器3および変調信号源4の規模は大きなものとなる。

【0004】そして、この従来のジッタ付与装置はデジタル信号に同期したクロック信号源を特に具備しなければならない。この発明は、上述の通りの問題を解消し

たジッタ付与装置を提供するものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】デジタル信号が入力される n 段シフトレジスタ11と、 n 段シフトレジスタ11の出力が対応する入力 I_0 、 I_1 、 I_2 ・・・ I_{n-1} に接続する n ライン t o 1 ライン・セクタ12とを有して、 n 段シフトレジスタ11により遅延せしめられたデジタル信号の内の任意の遅延量のデジタル信号を n ライン t o 1 ライン・セクタ12により選択して出力するデジタル遅延回路10を具備し、 n 段シフトレジスタ11を歩進するクロック A 信号源を具備し、クロック A を $1/N$ 分周する分周器20を具備し、分周器20の分周出力により歩進されるアドレス・カウンタ30を具備し、ジッタ内容を示すデータが記述されてこのRAMデータをアドレス・カウンタ30の記述内容によりアドレスして選択信号として n ライン t o 1 ライン・セクタ12に出力するRAM40を具備することを特徴とするジッタ付与装置を構成した。

【0006】

【実施例】この発明の実施例を図2を参照して説明する。図2において、デジタル遅延回路10は入力されるデジタル信号をクロック A の1周期づつ最大 n 周期迄遅延することができる遅延回路である。このデジタル遅延回路10は、デジタル信号は n 段シフトレジスタ11に入力され、 n 段シフトレジスタ11の出力は n ライン t o 1 ライン・セクタ12の対応する入力 I_0 、 I_1 、 I_2 ・・・ I_{n-1} に入力されて、 n 段シフトレジスタ11により遅延せしめられたデジタル信号の内の任意の遅延量のデジタル信号を n ライン t o 1 ライン・セクタ12により選択して出力するものである。

【0007】ここで、クロック信号源から送り込まれるクロック A はデジタル遅延回路10の遅延分解能を決定するクロックであり、デジタル信号のビット・レートより高い繰り返し周波数に選択される。クロック A の周期は遅延分解能そのものである。例えば、遅延分解能をデジタル信号のビット・レートの1%であるものとする、クロック A の繰り返し周波数はデジタル信号のビット・レートの100倍としなければならない。

【0008】 n ライン t o 1 ライン・セクタ12により n 個の入力の内の1個を選択するためには、セクタ12の選択信号線の本数 m は、 $2m \geq n$ としなければならない。例えば、 $m=3$ 、 $n=8$ とされる。 $1/N$ 分周器20はジッタの周期を $1/N$ にするために具備されている。この N を変更することにより、最短のジッタ周期からその N 倍のジッタ迄のジッタ周期の調整をすることができる。

【0009】アドレス・カウンタ30のビット数 l はジッタの周期により決定される。例えば、クロック A 16サイクルで1周期のジッタを加えるには、このカウンタ

は16進カウンタである必要があり、1=4としなければならない。40はRAMであり、例えば次の如きジッタ内容を示すデータをマイクロ・コンピュータ60により書き込む。

【0010】リタイミング・フリップ・フロップ50はnラインt o 1ライン・セクタ12を切り換える時に発生するスパイクを抑圧するために具備されたものであり、これが問題とされない場合は具備する必要はない。図2のタイミング・チャートを参照してこの発明の動作説明をする。ここで、

- シフトレジスタ数 : n=8
- RAMデータ線本数 : m=3
- RAMアドレス線本数 : l=3
- 分周比 : N=10
- クロックA : デジタル信号のビット・レート
の10倍の周波数とする。

【0011】変するに、アドレス・カウンタ30の内容に応じて、RAM40からデジタル遅延回路10のnラインt o 1ライン・セクタ12へ選択信号であるRAMデータが供給される。nラインt o 1ライン・セクタ12は、このRAM40のデータの書き込み内容に応じて、n段シフトレジスタ11の出力の内から何れか1本の出力を選択する。RAM40のデータの書き込み内容は下記の通りである。

【0012】

RAMアドレス	RAMデータ
0	0
1	1
2	2
3	3
4	4
5	3
6	2
7	1

この場合のnラインt o 1ライン・セクタ12の出力は⑦に示される通りになる。即ち、アドレス=0の時、データ=0というのであるから、元のデジタル信号からの遅延が零のシフトレジスタ1段目出力が選択出力される(ただし、シフトレジスタ1段目の出力は、デジタル信号よりクロックAの1周期分遅れているが、ここではそれを基準とする)。アドレス=1の時、データ=1というのであるから遅延がクロックAの1周期分であるのシフトレジスタ2段目の出力が選択出力される。アドレス=2の時、データ=2というのであるから遅延がクロックAの2周期分であるのシフトレジスタ3段目の出力が選択出力される。以下、同様に、アドレス=7の時、データ=1というのであるから遅延がクロックAの1周期分であるのシフトレジスタ2段目の出力が選択出力される。そして、⑦に示されるセクタ出力はリタイ

ミング・フリップ・フロップ50を介して⑧として出力される。ここで、元のデジタル信号からの遅延であるリタイミング・フリップ・フロップ50の出力を縦軸にとって示すとこれは⑧に示される如くなる。このジッタの内容は、中心となる位相遅延はクロックAの4周期分、ジッタ振幅はピーク・ピーク値でクロックAの4周期分、そしてジッタ周期はクロックAの80周期分の三角波ジッタである。

【0013】RAM40のデータの書き込み内容を下記の通りに変更してみる。

RAMアドレス	RAMデータ
0	6
1	7
2	7
3	6
4	4
5	3
6	3
7	4

この場合のセクタ12の出力およびリタイミング・フリップ・フロップ50の出力は⑦' および⑧' に示される通りである。リタイミング・フリップ・フロップ50の出力⑧' を縦軸に遅延をとって示すと⑧' に示される如くなる。このジッタの内容は、中心となる位相遅延はクロックAの7周期分、ジッタ振幅はピーク・ピーク値でクロックAの14周期分、そしてジッタ周期はクロックAの80周期分の近似正弦波ジッタである。

【0014】

【発明の効果】以上の通りであって、この発明のジッタ付与装置は、位相遅延とジッタの付与とを同時に実現することができるものであり、RAM40のデータの記述内容に対応した位相遅延量、ジッタ量およびジッタ波形を実現することができる。この記述内容の変更はマイクロ・コンピュータにより容易に実行することができる。そして、デジタル信号に同期したクロック源を特に具備する必要もない。

【図面の簡単な説明】

【図1】ジッタ付与装置の従来例を示す図。

【図2】この発明の実施例を示す図。

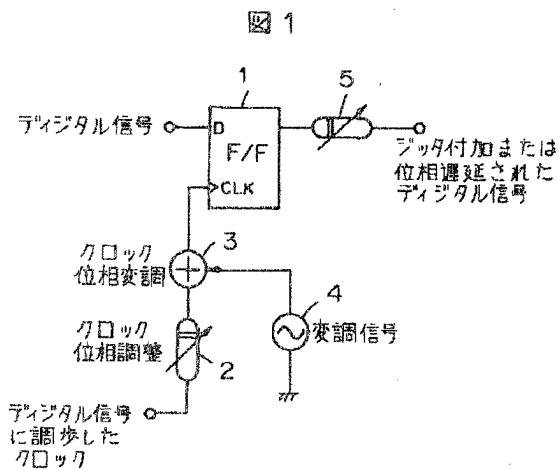
【図3】この発明の実施例のタイミング・チャート。

【図4】この発明の実施例の他のタイミング・チャート。

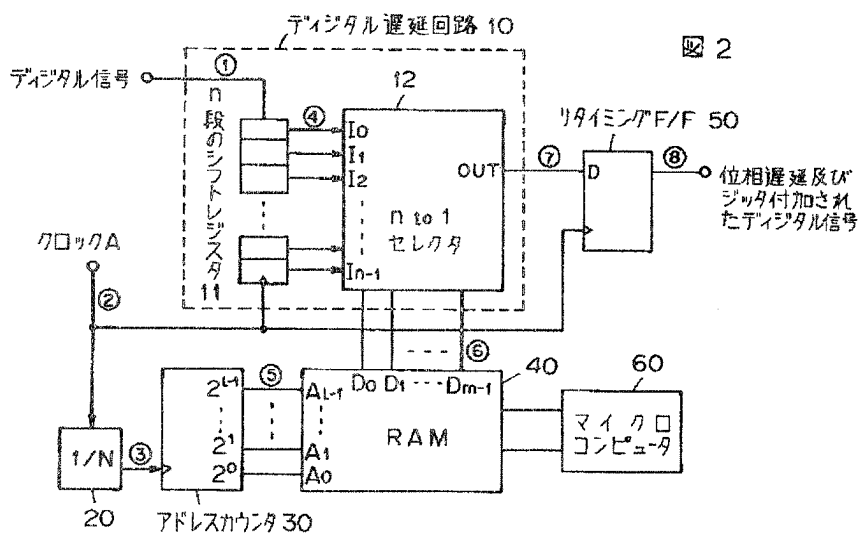
【符号の説明】

- 10 デジタル遅延回路
- 11 n段シフトレジスタ
- 12 nラインt o 1ライン・セクタ
- A クロックA信号源
- 20 1/N分周器
- 30 アドレス・カウンタ
- 40 RAM

【図1】



【図2】



【図3】

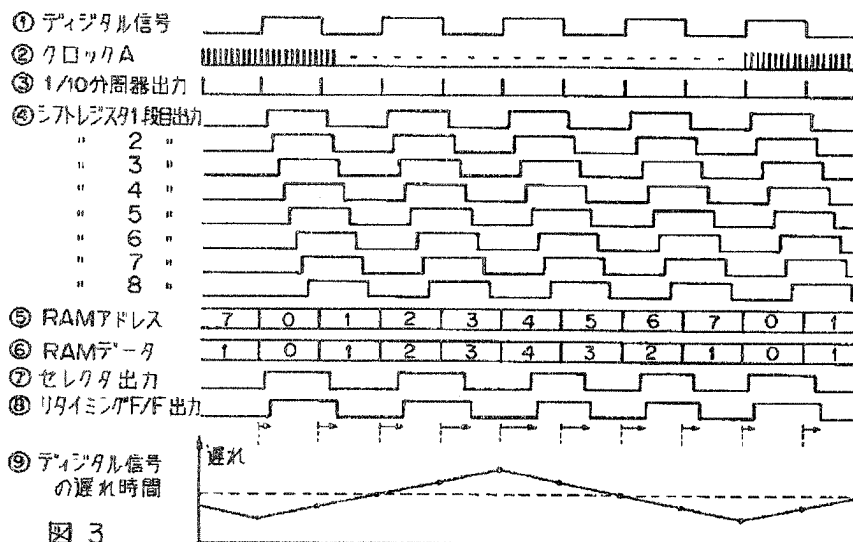


図 3

【手続補正書】

【提出日】平成5年1月6日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正内容】

【0008】nラインto1ライン・セレクタ12によりn個の入力の内の1個を選択するためには、セレクタ12の選択信号線の本数mは、 $2^m \geq n$ としなければならない。例えば、 $m=3$ 、 $n=8$ とされる。1/N分周器20はジッタの周期を1/Nにするために具備されている。このNを変更することにより、最短のジッタ周期からそのN倍のジッタ迄のジッタ周期の調整をすることができる。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正内容】

【0013】RAM40のデータの書き込み内容を下記

の通りに変更してみる。

RAMアドレス	RAMデータ
0	6
1	7
2	7
3	6
4	4
5	3
6	3
7	4

この場合のセレクタ12の出力およびリタイミング・フリップ・フロップ50の出力は⑦' および⑧' に示される通りである。リタイミング・フリップ・フロップ50の出力⑧' を縦軸に遅延をとって示すと⑨' に示される如くなる。このジッタの内容は、中心となる位相遅延はクロックAの7周期分、ジッタ振幅はピーク・ピーク値でクロックAの4周期分、そしてジッタ周期はクロックAの80周期分の近似正弦波ジッタである。